

天神川流域下水道

天神浄化センター



大切な水循環のために

流域下水道とは

- 流域下水道は、川や湖、海などの水質保全を効果的に行うために、二つ以上の市町村で集めた下水を浄化センターで処理する下水道です。
- 各家庭や工場などからの下水を集める下水管は市町村が造り、集めた下水は、都道府県が建設した流域下水道の幹線管渠を流れ、浄化センターできれいな水に処理されます。

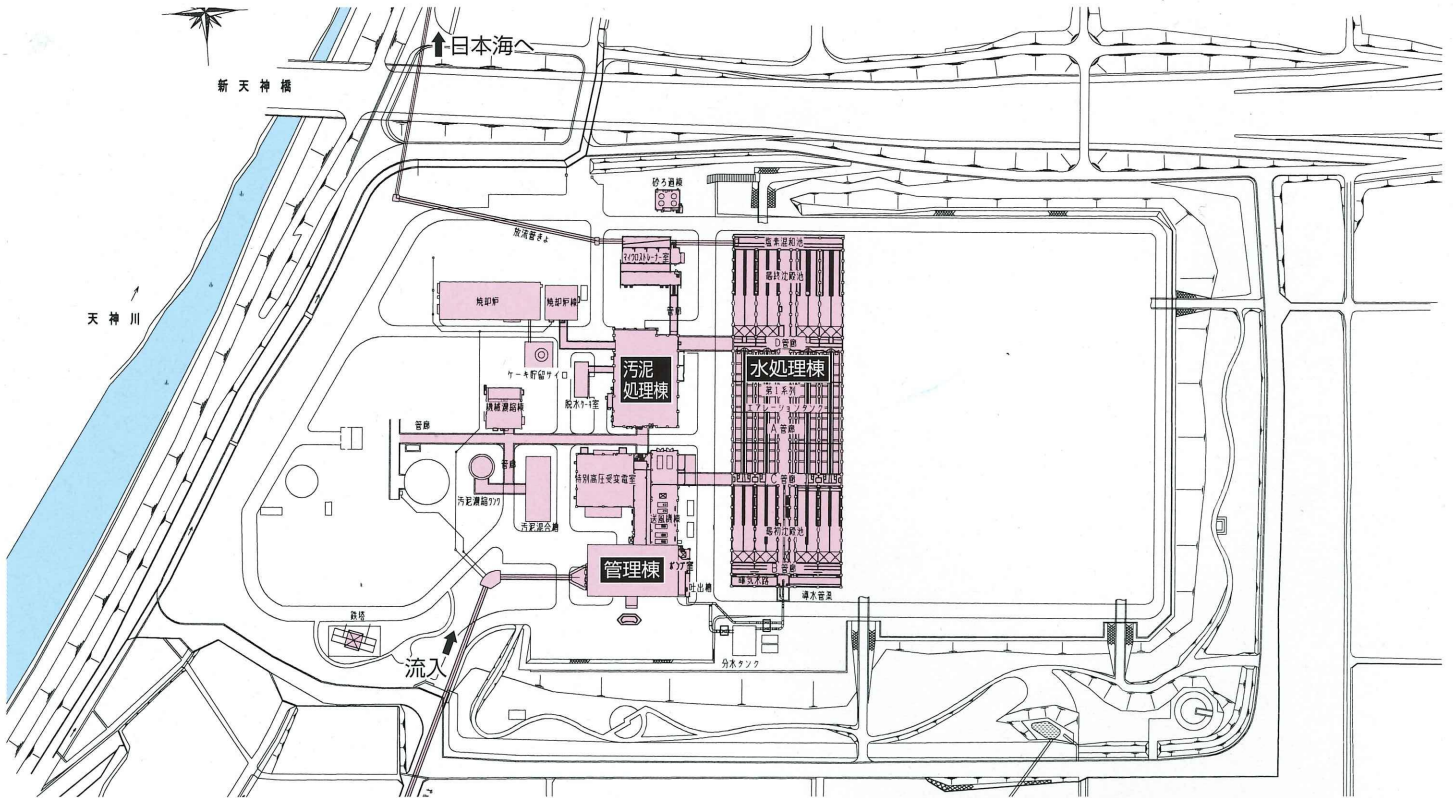
天神川流域下水道の効果

- 天神川や東郷池の水質を保全するために、天神川・東郷池周辺地域を広範囲にカバーする下水道を整備することにより、効率的に水質保全が行えます。
- 単独では下水道整備を行うことが難しい市町村でも、鳥取県が主体となって天神浄化センターや幹線管渠を整備することで、下水道事業が円滑に進められます。
- 行政区域にとらわれないで下水をまとめて処理するので、小さな処理場を多く造るより効果的で経済的です。

天神浄化センター施設配置図

天神浄化センターの西側には1級河川の天神川、北側1km先には日本海、東側及び南側には住宅地があります。敷地面積は12.88ha、建物面積は23,490㎡であり、飛砂防止、水処理施設からの臭い拡散防止及び降雪からの保護を目的に水処理棟全体が屋内化されています。

供用開始より標準活性汚泥法を採用し、管理棟、水処理棟、汚泥処理棟などを配置しています。標準活性汚泥法は、バクテリア、原生動物などから構成される微生物の集まり「活性汚泥」を利用して汚水を浄化する下水処理方式で、最も一般的に採用されています。



■ 現有施設

排除方式	分流式
日最大処理能力	32,000㎡/日
処理方式	標準活性汚泥法
放流先	日本海
敷地面積	12.88ha
処理開始	昭和59年1月

施設・設備の概要

名称		施設・設備の内容	名称	
管	理棟	地下2階、地上3階	1棟	
送	風機棟	地下1階、地上2階	1棟	
水処理施設	最初沈殿池	幅10m×長さ35m×水深3m	3池	
	反応タンク	幅10m×長さ56m×水深5m	4池	
	最終沈殿池	幅10m×長さ40m×水深2.7m	4池	
	塩素混和池	幅2.5m×長さ40m×水深2.5m×2回路 次亜塩素酸ナトリウム貯留タンク	1池 1基	
再処理	砂ろ過器	移昇式上向流連続式砂ろ過器 ろ過面積5.0㎡	3台	
汚泥処理施設	重力濃縮槽	重力式円形放射流方式 内径10m×水深3.5m	1槽	
	機械濃縮機	ベルト型ろ過濃縮機 20㎡/時×2.1kw	2台	
	脱水機	ベルトプレス脱水機 汚泥処理量130kg/m・h×3m	スクリーブプレス脱水機 464kg/h	各1台
	脱水ケーキ貯留サイロ	250㎡	1基	
自家発電設備		ディーゼル機関 定格出力 2,200PS 1,500KVA	1台	

* 水処理棟屋上及び東側の敷地には、県企業局が太陽電池パネル（1,500kw）を設置し平成27年度から運転開始しています。